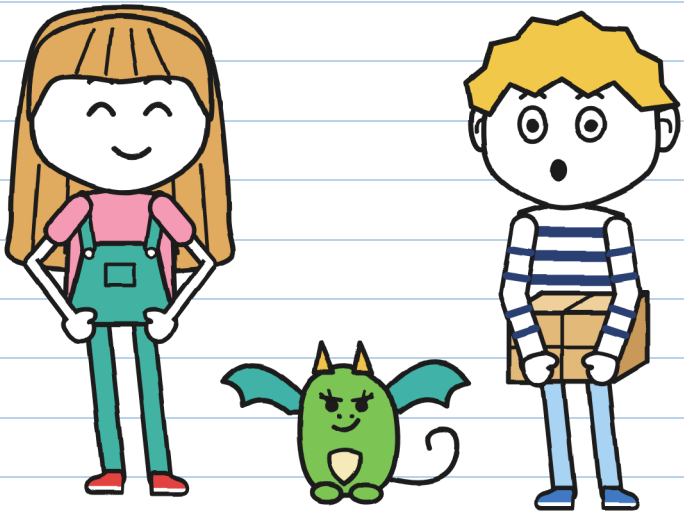
ありえない はいたつ・1

このにもつは かみつく

Lui Eriksson



（グニの ノート）

サイズ L
上級・11+

ありえない はいたつ・1
このにもつは かみつく

文と絵：Lui Eriksson

サイズ L・上級・11+

日本語版：LinguAula

初版：2026

© 2026 Lui Eriksson · info@linguaula.com

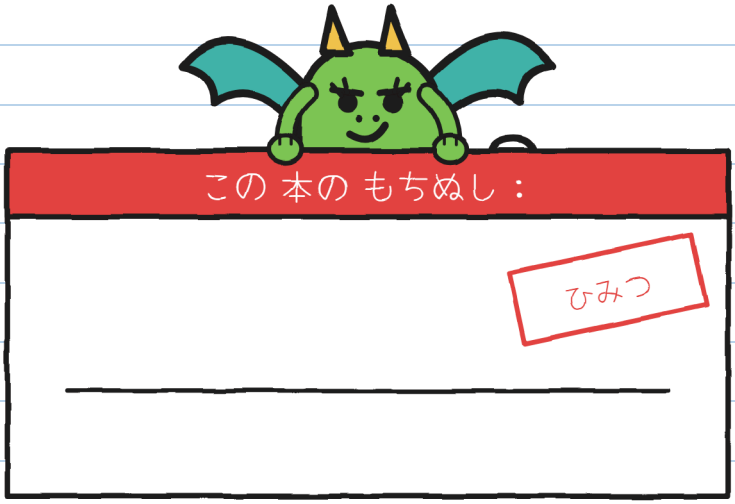
自由にコピーして、学校でも家でも使えます。

LinguAula

章ごとの 練習は linguaula.com で

この本を書いているあいだ、けがをした荷物は一つもなかった。

ほとんど。 —J.



ほかの だれの ものでも ない。 —J.

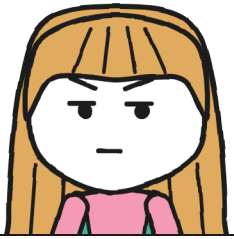
見つけたら、夜明け前に もどしてね。

パンくずが かみつくのは、お話の 中に いるから。本当の どう
ぶつに 会ったら、76ページを 見てね。 —J.

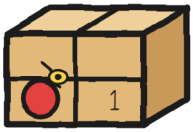
だれが だれ？



グニ。町の 新入り。プロの はいたつやさん（いちおう）。この ノートの もちぬし。



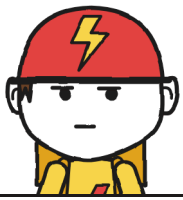
フリータ。みどりで 書く 子。みどりで 書いた ものは きえない。



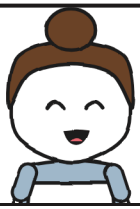
1番の にもつ。あて先：ドラゴンの家。ちゅうい：あたためておくこと。



マラさん。「ありえない はいたつ」の 店の 人。ルールは ひとつだけ。



トニョ。イナズマ便の はいたつやさん。すごく はやく、すごく つまらない ものを とどける。



エリアさん。パンやさん。金あみから オーブンの あたたかい 空気が 出る。

グニの
はいたつノート

ひみつ。

「ひみつ」って、わたしが先に読むって意味だよ。 —J.

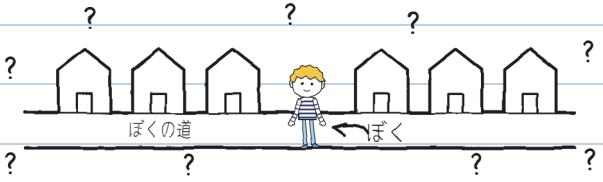


このノートは、引っ越しの14番の箱から出てきた。箱には自信たっぷりに「台所」と書いてあったのに、中にはスプーンの一本もなくて、入っていたのは、このノートと、かたほうだけのくつ下と、だれのものでもないゴムのカエルだけだった。

第 1 章

とどけられない 1番

この町に来て四日。今のところ、ぼくが知っている道は一本だけ。ただし、はしからはしまで全部。

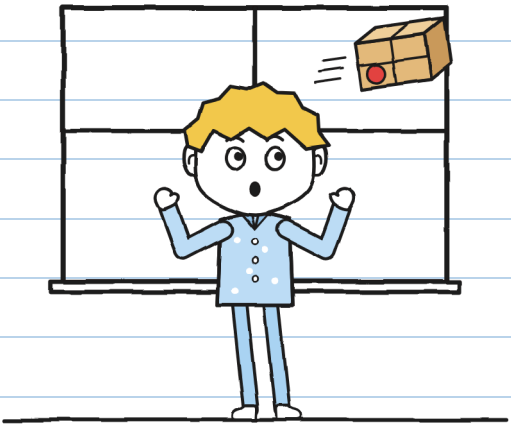


ともだちを作る ぼくの計画：

1. 「こんにちは」と言う。
2. おもしろいことを言う。
3. **???**

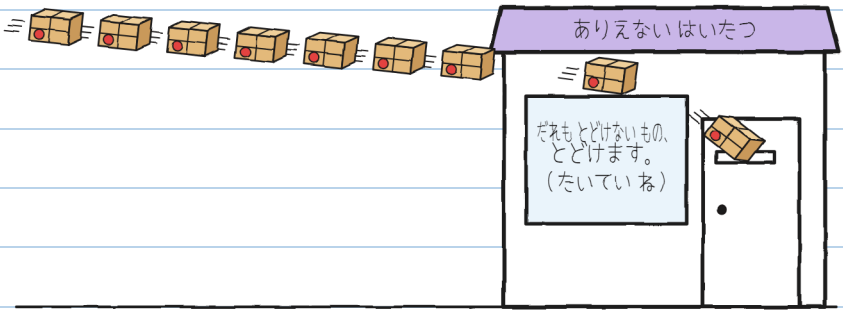
2番目でつまずいた。3番目は、さっぱりだ。

今朝、窓（まど）の前を何かが飛んでいって、その音で目が覚めた。ぼくの通りでは起きないことだ。少なくとも、そう思っていた。



にもつだった。

それから、もう一つ、さらにもう一つ。九つの荷物がアヒルのように一列になって通りを渡り、向かいの店の郵便受けから中へ入っていった。（あとで知ったことだが、残りの十一こは、ぼくがぐっすり眠っているあいだに、もう帰っていたらしい。）

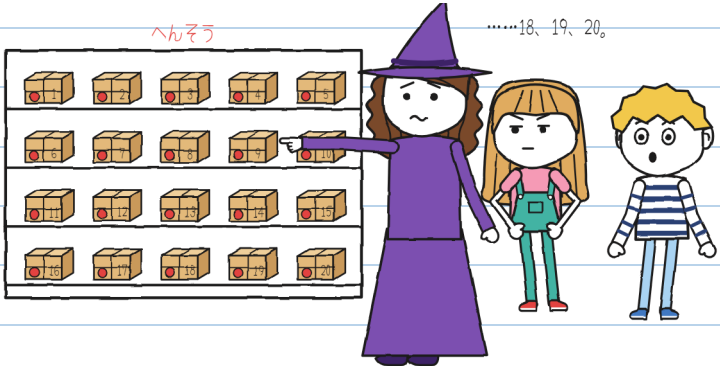


これで2番目はできた。「荷物が空を飛んでいるのを見た」。

そんなの、おもしろくないよ。しょっちゅうあることでしょ。

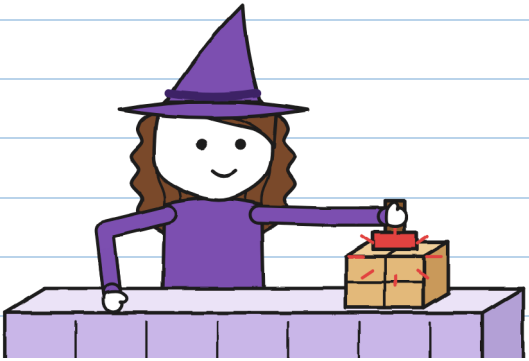
そのメモを書いたのはフリータで、ぼくが今朝、向かいの店で会ったばかりの子だ。フリータはみどりで書く。みどりで書いたものは消えない。ためしたから、まちがいない。

しまもようのセーターをパジャマの上に着て、行かないほうがいい理由を思いつく前に、道をわたった。

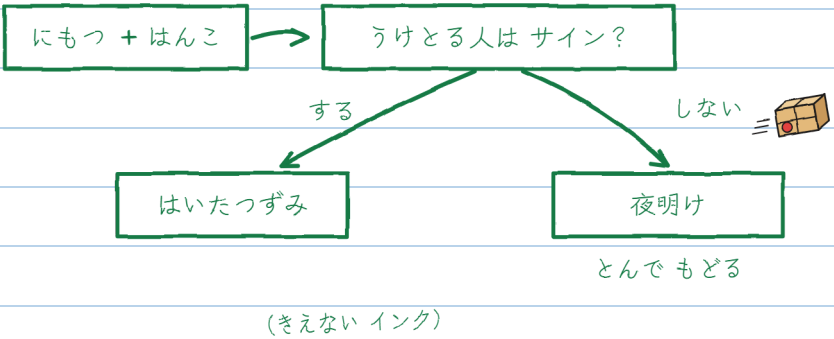


「全部もどってきた」と、魔女はため息をついた。「また、だ」

魔女(まじょ)はマラさんといって、「ありえない はいたつ」の店をやっている。それに、電球をまるごと飲みこんだみたいにぴかぴか光るはんこも持っている。



フリータは、ひとこともぼくに聞かずに、ぼくのノートでそれを説明してくれた。



（きえない インク）

こうすれば、にもつは なくならない。とどくことも ないけど。

たなには、もどってきた荷物が二十こ。だれにもとどけられたことがなく、送り主はいつも同じ人だ。

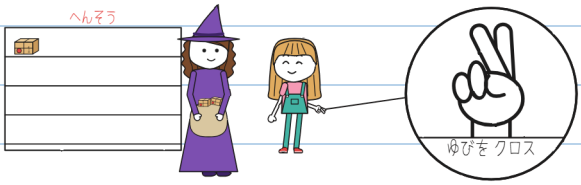
あて先：.....
さしだし人：R.

「R.ってだれ？」とぼくは聞いた。
「ものすごく字のきたない人」とマラさんは言った。それだけだった。

マラさんは、もどってきた荷物を十九こ袋（ふくろ）に入れた。その夜はピアノを灯台まで運ぶので、そのついでに全部もう一度ためす。帰りは夜明け。残ったのは一つだけ。

「それはだめ」と、マラさんは注意した。「ルールはひとつだけ。たなにさわらないこと」

「もちろん」と、フリータはうなずいた。



ドアがしまると、フリータはぼくを上から下までじろじろ見た。荷物を引き受ける前に大きさを測(はか)るみたいに。

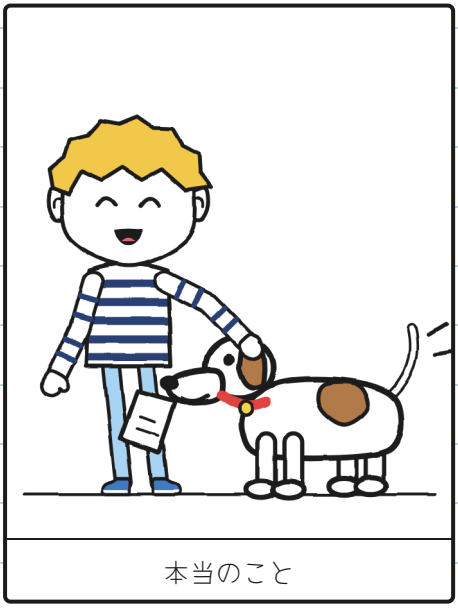
「ねえ、配達できるの？」

そしてぼくは、友だちがほしい人ならだれでもそう答えるように答えた。

「うん。前にいた町では、プロの配達員だったよ。」



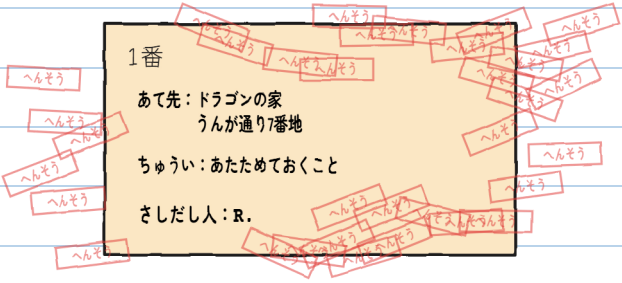
言ったこと



本当のこと

プロ。犬用。

フリータは、たった一つ残った荷物を取り出した。1番、とどけられないやつだ。フリータの手は少しふるえていた。ぼくもだったけれど、ぼくのほうがうまくかくせた。ばれたのは、うらがえしに着たセーターのせいだけだ。

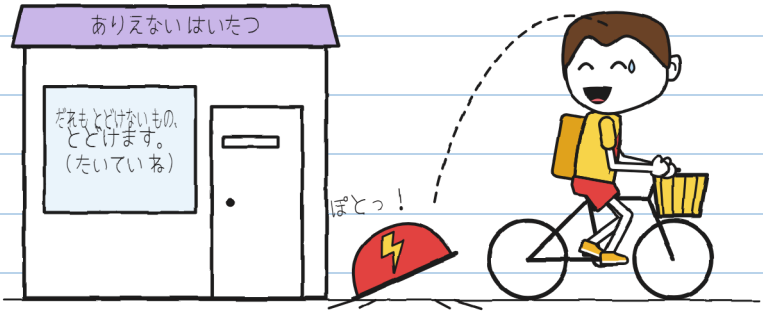


「夜明けまでにこれをとどけたら」とフリータは言った。「マラさんも、わたしにもどってきた荷物の配達ができるって、やっとわかるはず」

「じゃあ、できなかったら？」
「できなかったら、ひとりでもどってくる。それで、ここでは何も起きなかったことになる」

すきのない完全な計画に思えた。まだそのときのぼくは、中に何が入っているのかを知らなかった。

自転車のベルが鳴って、ショーウィンドウの向こうに、ヘルメットをかぶった男の子があらわれた。黄色いリュックには大きく「イナズマ便。十分でとどかなければタダ」と書いてある。

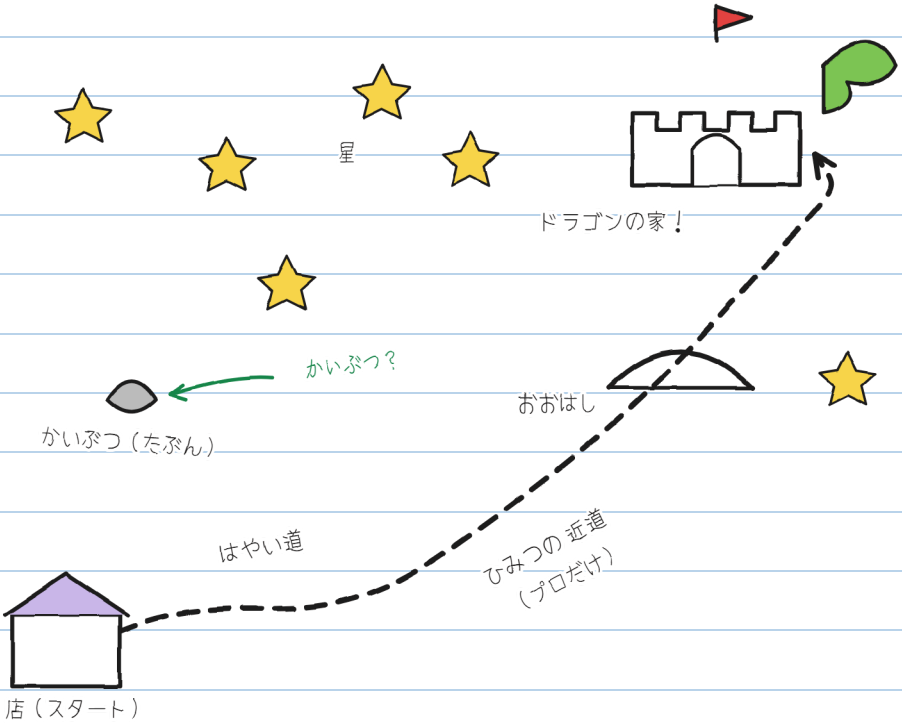


「『ありえないはいたつ』だって？」とトニョはあざ笑った。「ほんとにありえないな。おまえたちに何かがとどけられるなんて」

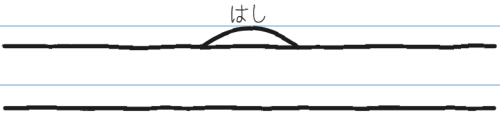
トニョ。すごく はやく、すごく つまらない ものを とどける。

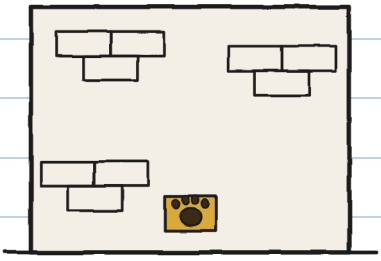
「じゃあ、今日はこれをとどけるのよ」とフリータはつんとして言い返した。トニョは「ドラゴンの家」と読むと、ヘルメットが落ちるほど大笑いした。

配達の地図を作った。プロの配達員は地図を作るものだし、ぼくは今朝からプロなのだ。



星は 道に ない。





うんが通り7番地

うんが通り7番地は、家じゃなかった。かべだった。

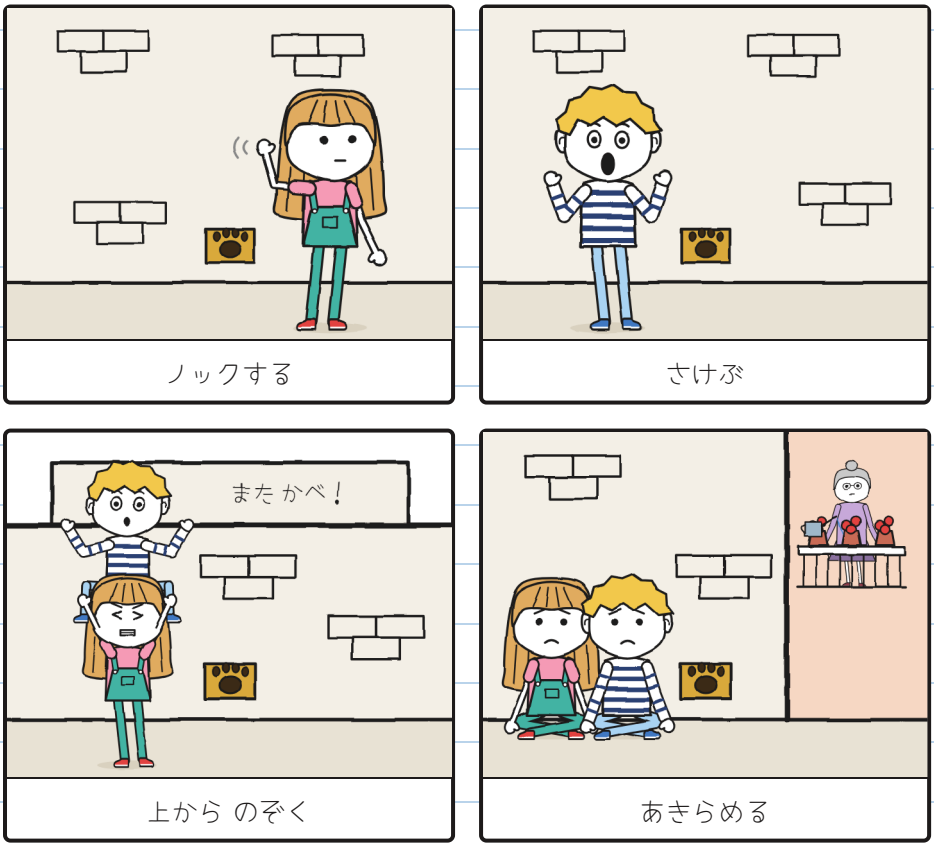
つるつるのかべで、ドアもまどもなく、ハエでもすべり落ちそうだった。あるのは、地面すれすれの低いところにある、しんちゅうの板だけ。形のへんなくぼみがあって、何かとても小さなものにちょうどいい高さだった。



しんちゅうのいた

「もしかしたらポストかも」とぼくは言ってみた。荷物は、立てても入らなかった。

かべにためせることは、ひととおりためした。



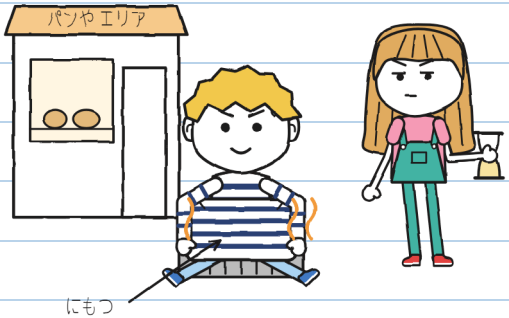
となりの家のバルコニーで、ゼラニウムに水をやっていたおばさんが、もう何度も見たことがあるという顔でぼくたちを見ていた。

「その荷物ね、何年も前から来てるのよ」とおばさんは言った。「いつも、来たときのまま帰っていくわ」

そで
袖から入ってくるような寒さの中で、フリータはもう一度ラベルを読んだ。
「『あたためておくこと』って書いてあるよ」とフリータは言った。「なのに、何年も氷みたいなたなの上にいたんだ」

ぼくは新入りだ。新入りというのは、まだ説明書きのとおりにやるものだ。「あたためておくこと」と書いてあるなら、あたためておく。

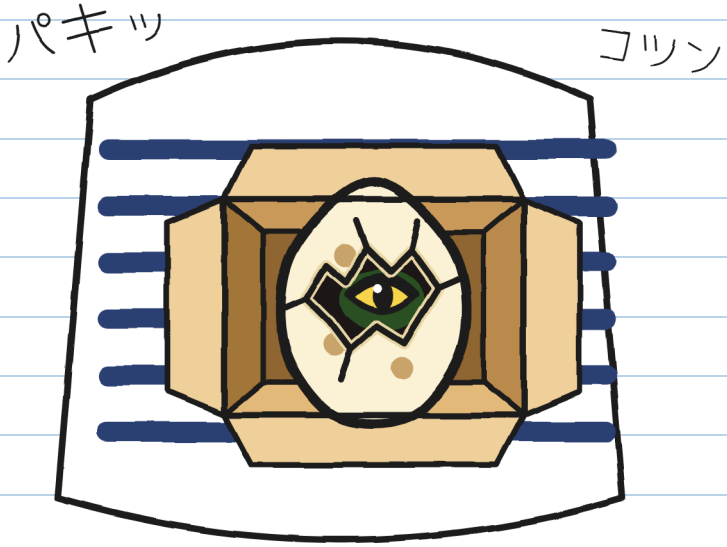
荷物をセーターの下に入れ、また大橋をわたって、エリアさんのパン屋の前の金あみの上にすわった。オーブンのあたたかい空気が出てくるところだ。



赤ちゃんが できた ポストみたいだね。

そのまま、だれのおなかでも鳴らせそうなパンのにおいに包まれて、ずいぶん長いあいだすわっていた。ぼくは汗をかきはじめた。そのとき、何かがおなかをコツンとたたいた。コツン。

「今の、おなかの音？」とフリータはまゆを片方上げて聞いた。
「ぼくのおなかは、コツンなんて言わないよ」



そして、にもつが ぼくを 見た。

ひとつの おはなし、六つの サイズ

六つの サイズが ある。3さいから 16さいまで。ことばは 20いじょう。**XXS**、**XS**、**S**、**M**、**L**は おなじ ページ、おなじ 絵。**XL**は しょうせつ。かわるのは、お話の しかただけ。

サイズ XXS · PRE-A1
ハクションと、ちいさな ほのおが でた！

サイズ XS · A1
ぼくは ふつうの くしゃみ。その こは ちいさな ほのおの くしゃみ。ラベルが こげた。

サイズ S · A2
ぼくは ふつうの くしゃみを した。その 子は ちいさな ほのおの くしゃみを した。ほのおは ラベルの 角を こがした。そのあと、その 子は こげた 角を 食べた。

サイズ M · B1
ぼくのくしゃみはふつうだった。でもその子は、小さなほのおのくしゃみをして、ラベルの角を焼いた。それから、焼けた角を食べてしまった。

サイズ L · B2
ぼくのくしゃみはふつうだった。ところがその子のくしゃみは小さな炎になって、ラベルの角をこがした。そして、すまし顔で、こげた角をぺろりと食べてしまった。

サイズ XL · B2-C1
イラスト小説 · 13+
CEFRのレベルは目安です。

それぞれの サイズで、おなじ お話。 —J.

章ごとの 練習は **linguaula.com** で